

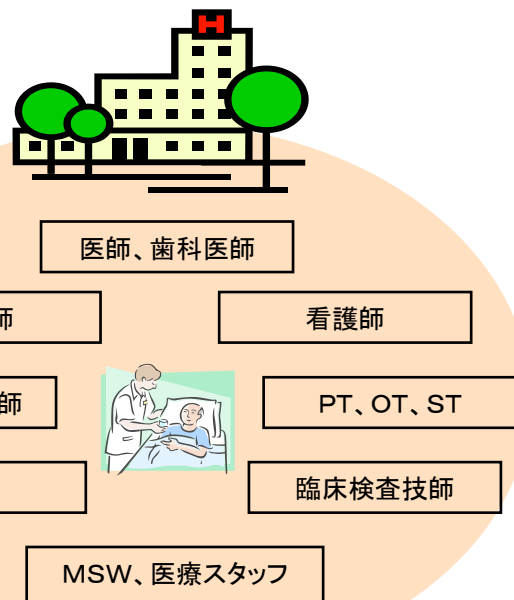
本市の実情にあった在宅医療の推進を図るため、次のとおり課題を次の3つに整理

- 在宅医療と介護の連携体制の構築
 - 病院(特に急性期病院)と在宅医療提供機関(診療所、薬局、訪問看護ステーション等)との連携体制の構築
 - 在宅医療従事者の人材育成、市民への普及啓発
- 在宅医療の担い手である医師会と市が協働で在宅医療と介護との連携を進める

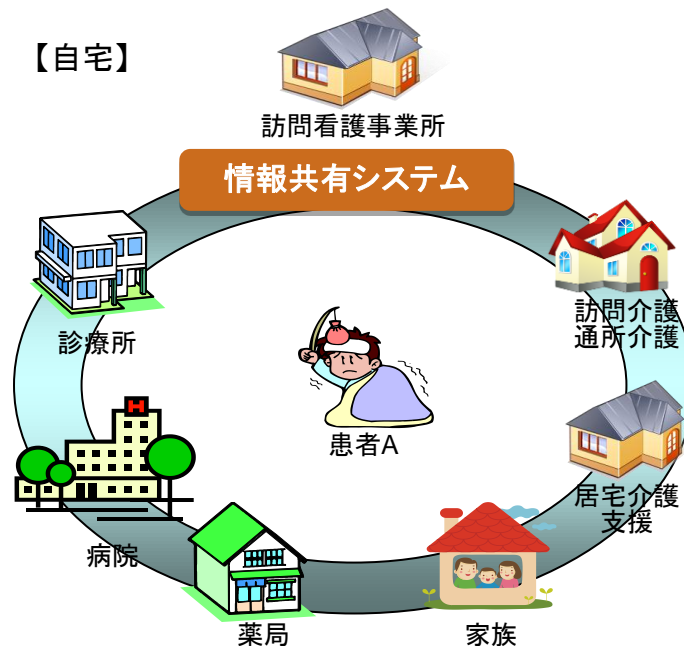
ICTを利用した多職種協働のための情報共有の仕組みづくり

- 多職種協働による在宅医療の支援体制を構築し、医療と介護が連携した、地域における包括的かつ継続的な在宅医療・地域包括ケアの提供を目指すため、クラウド上で患者情報を共有するソフトウェアと情報通信機器端末を活用したモデル事業を実施。
- 在宅医療の担い手である医師会が率先し、統一した情報共有ソフトウェアを導入することで、区や事業者を越えた在宅医療と介護の連携体制を構築。

【病院】



【自宅】





(福岡県)

地域包括ケアシステム構築に向けた取組事例（様式）

①市区町村名	福岡県北九州市
②人口（※1）	972,713人 ※平成24年3月31日時点 ()
③高齢化率（※1） (65歳以上、75歳以上それぞれについて記載)	65歳以上 25.5% () 75歳以上 19.1% ※平成24年3月31日時点
① 取組の概要	○多職種協働による在宅医療の支援体制を構築し、医療と介護が連携した、地域における包括的かつ継続な在宅医療・地域包括ケアの提供を目指すため、クラウド上で患者情報を共有するソフトウェアとタブレット端末等を活用したモデル事業等を実施
⑤取組の特徴	○本市の在宅医療の担い手である北九州市医師会と連携し、医師会立の訪問看護ステーションが中心となって、患者の選定や関係機関との調整を実施
⑥開始年度	○平成24年度
⑦取組のこれまでの経緯	○平成24年度は、市医師会と北九州市で、本市の在宅医療を進めるうえでの現状と課題について意見交換を行い、共同で取り組んでいく事項を整理
⑧主な利用者と人数	○在宅で腹膜透析を行っている患者3名とその家族 ○病院、診療所、薬局、介護事業所等11事業所
⑨取組の実施主体及び関連する団体・組織	○北九州市医師会（小倉医師会）
⑩市区町村の関与（支援等）（※2）	○平成24年度予算額：61万円 ○平成25年度予算額：1,300万円
⑪国・都道府県の関与（支援等）（※3）	なし
⑫取組の課題	○入力の手間や情報管理に対する不安などを理由に、システム導入に消極的な意見も多く、より多くの民間事業所を含めた取り組みとして拡大していくには更なる啓発が必要
⑬今後の取組予定	○平成25年度からは、市内全ての医師会（5地区医師会）にて統一したクラウド型情報共有システムを導入予定。 ○また、「在宅同行訪問研修」、「小児患者事例検討会」、「在宅医療・レスパイト相談窓口の設置」等を各区医師会の実情に応じて実施する予定
⑭その他	
⑮担当部署及び連絡先	北九州市保健福祉局保健医療課 (093) 582-2678

※1 一部地域に限定した実施の場合は、当該地域の人口・高齢化率を()内に記載してください。

※2 市町村から財政的支援が行われている場合には予算額等を含めて記載ください。

※3 国や都道府県から財政的支援を受けている場合は、補助金や交付金等の名称、額等を含めて記載ください。



地域・区・市レベルの各役割をつないで実践する地域ケア会議(福岡県北九州市)

【概要】 (「地域ケア会議」の名称は使用せず、既存の名称で実施)

地域包括支援センターにおいて、現在の支援ネットワークやサービスで在宅支援の課題が解決しない高齢者を把握し、統括支援センターで開催する包括ケア会議で多職種による高齢者の実態や課題を把握し、保健福祉局関係各課が課題解決のための地域ネットワーク等を高齢者支援と介護の質の向上推進会議等で検討する。

【実践のイメージ】

